日商簿記3級検定試験

100%合格目標

無料講座

第4回　精算表作成のための仕訳問題

公認会計士・税理士・AFP

依田宣夫

※計※計※

第４回　精算表作成のための仕訳問題

この問題は、主として第５問対策の仕訳の問題です。
計算のスピードや時間配分等に慣れるため問題を解いてください。

（注）
ここでは、すべての練習問題を掲載できませんので、
以下のURLへアクセスを、お願い致します。
http://www.geocities.jp/kateikessan/bokikenntei/bokikenntei.html

次回の日商簿記３級検定試験日

第１３６回　日商簿記３級検定試験

平成２６年２月２３日（日）

受験者数・合格率

	第１35回	第１34回	第１33回
受験者数	119,736名	110,190名	109,473名
実受験者数	93,781名	85,585名	84,846名
合格者数	45,054名	29,025名	33,513名
合格率	48.0%	33.9%	39.5%

目次

第１　ステップ　精算表作成問題のアドバイス	
第２　ステップ　イメージ仕訳の基本練習	第２　ステップ　イメージ仕訳の解答
第3ステップ　未処理の仕訳練習問題（その１）	第3ステップ未処理の仕訳練習問題の解答（その１）
第4ステップ　未処理の仕訳練習問題（その２）	第4ステップ未処理の仕訳練習問題の解答（その２）
第5ステップ決算整理仕訳練習問題（その１）	第5ステップ決算整理仕訳練習問題の解答（その１）
第6ステップ　決算整理仕訳練習問題（その2）	第6ステップ決算整理仕訳練習問題の解答（その2）
第7ステップ　決算整理仕訳練習問題（その3）	第7ステップ決算整理仕訳練習問題の解答（その3）
第8 ステップ　試験用練習問題	第8ステップ　試験用練習問題の解答
（参考）　出　題　形　式	

第１ステップ　　「精算表作成問題のアドバイス」

ここでは、主として第５問の精算表の答案作成のための
アドバスをしますので参考にしてください。
精算表の答案作成のための主な決算整理事項は、決まって
いますので、その内容と科目を理解することが必要です。
精算表の答案作成には、イメージ仕訳で完成した仕訳を、
科目ごとに順次精算表に記入して、貸借対照表と損益
計算書の金額を科目ごとに計算していくと、精算表の答案
作成が早く、正確にできます。

精算表作成問題では、決算整理事項の処理をする前に、未処理の分の処理を行い、
次に、決算整理事項の処理を行います。

１、未処理取引
決算整理事項の処理をする前の未処理の主な項目は、次の通りです。
１、現金過不足の整理
２、出張旅費の概算払いの精算
３、記帳誤り
４、仕訳の未処理
５、仮払金の整理
６、仮受金の整理

２、決算整理取引
決算整理事項・・・決算日現在の勘定科目の残高を正しい金額にするための修正をすることを
決算整理といい、決算整理が必要な事柄を決算整理事項といいます。

決算整理事項の内容は決まっていて、決算整理が必要な主な項目は、次の通りです。
１、仕入と売上原価
２、貸倒引当金の繰入
３、減価償却費の計上
４、費用・収益の繰延
５、費用・収益の見越
６、有価証券の評価
７、消耗品の計上

（１）　「決算日までの未処理の事項」

精算表作成問題では、決算整理事項の処理をする前に、決算日に未処理の分の処理を行います。

（事　例）

１、現金過不足・・・　現金過不足勘定は、実際の現金の金額（手持ち現金）が帳簿残高より多い場合には貸方（右側）、少ない場合には借方（左側）に計上されます。

（１）　現金過不足額（貸方残８,０００円のうち５,０００円は受取手数料の記入漏れであることが判明したが、残額については決算日現在その発生原因が依然として不明であったので適切な処理をした。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　受取手数料　５,０００ 現金過不足　５,０００	増加	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　５,０００円	受取手数料　５,０００円

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　３,０００ 雑　益　３,０００	減少	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　３,００	雑　益　３,０００

0	

（２）現金過不足額（借方残）５００円のうち、２００円は従業員に対する給料
１２,２００円を現金で支払った際に,この取引を誤って１２,０００円で
記帳したことによるものであることが判明した。しかし、残額については、
原因が不明であるので、適切に処理することにした。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　２００ 給　料　　２００	減少	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　２００	現金過不足　　２００

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　３００ 雑　損　　３００	減少	右

左側（借方）	右側（貸方）
雑　損　　３００	現金過不足　　３００

２、出張旅費の精算・・・出張旅費の概算払いは仮払金で処理されています。
出張していた従業員が帰店し２０,０００円の概算払いをしていた旅費の精算をした結果、
現金１,０００円の戻し入れがあった。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　現　金　　１,０００ 仮払金　　１,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　　１,０００円	仮払金　　１,０００円

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　旅　費　　１９,０００ 仮払金　　１９,０００	増加	左

(仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
旅　費　　１９,０００円	仮払金　　１９,０００円

３、記帳誤り

期中に小切手を振り出して支払った広告費７０,０００円を８０,０００円と記帳していたことが

判明した。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　広告費　　１０,０００ 当座預金　　１０,０００	減少	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
当座預金　　１０,０００円	広告費　　１０,０００円

４、仕訳の未処理

商品の注文にかかわる手付金として受領した前受金８０,０００円のうち、６０,０００円

分に

ついては、商品の引渡しが完了していたが、この処理が未済であった。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前受金　　６０,０００ 売　上　　６０,０００	減少	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
前受金　　６０,０００	売　上　　６０,０００

５、仮受金の整理

仮受金３０,０００円は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に振り込まれていた

取引を記帳したものであった。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　仮受金　　３０,０００ 売掛金　　３０,０００	減少	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
仮受金　　３０,００ ０	売掛金　　３０,０００

6、店主の私用による消費の未記帳

店主が私用のため商品（原価５,０００円）を消費したが、この取引が未記帳となっている。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　仕　入　　５,０００ 資本金　　５,０００	減少	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
資本金　　５,０００	仕　入　　５,０００

7、仮払金の整理

仮払金１００,０００円は、当期に備品を発注した際に購入代金の一部を頭金として支払った

もので、すでに、使用中である。なお、この備品代金２５０,０００円の残額は、決算日現在未払いであり、これが未記帳となっている。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　備　品　　１００,０００ 仮払金　　１００,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
備　品　　１００,０００	仮払金　　１００,０００

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　備　　品　　１５０,０００ 未払金　　１５０,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
備　　品　　１５０,０００	未払金　　１５０,０００

（２）　「決算整理事項」

１、仕入と売上原価

売上原価の計算

売上原価＝期首商品＋当期仕入高ー期末商品

（例）　期末商品棚卸高　２００,０００円。期首繰越商品の金額は１５０,０００円。

なお、売上原価は「仕入」で計算する。

（１）　期首

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　繰越商品　　１５０,０００ 仕　　入　　１５０,０００	減少	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
仕　　入　　１５０,００ ０	繰越商品　　１５０,０００

（２）期末

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎繰越商品　　２００,０００ 仕　　入　　２００,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
繰越商品　　２００,０００	仕　　入　　２００,０００

２、貸倒引当金の繰入

期末未処理整理事項の処理後の受取手形および売掛金の期末残高に対して、

「差額補充法」により２％の貸倒引当金を設定する。期末残高は受取手形３００,０００円、

売掛金１５０,０００円、貸倒引当金６,０００円である。

貸倒引当金見積金額　（受取手形３００,０００円＋売掛金１５０,０００円）×２％　＝９,０００円

貸倒引当金繰入額　　９,０００円－６,０００円＝３,０００円

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　貸倒引当金　　３,０００ 貸倒引当金繰入額　　３,０００	増加	右

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入額　　３,０００	貸倒引当金　　３,０００

（注）「洗替法」による場合の仕訳

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金　　６,０００	貸倒引当金戻入　　６,０００

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入額　　９,０００	貸倒引当金　　９,０００

３、減価償却費の計上

備品および建物について、それぞれ定額法により減価償却をする。

・　間接法による場合は減価償却累計額（負債）という科目を使います。

・　直説法による場合には、備品、建物などの固定資産の金額を直接減額します。

備品・　帳簿価額：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品減価償却累計額５４０,０００円

備品

減価償却費　（1,０００,０００円－1,０００,０００×１０％）÷１０年＝９０,０００円

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　減価償却費　　９０,０００ 備品減価償却累計額　９０,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　９０,０００	備品減価償却累計額　９０,０００

（「直説法」による仕訳）

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　９０,０００	備　　品　　９０,０００

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：２５年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額1,１５２,０００円

建物

減価償却費　（５,０００,０００円－５,０００,０００×１０％）÷２５年＝１８０,０００円

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎減価償却費　　１８０,０００ 建物減価償却累計額１８０,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）

減価償却費　　１８０,０００	建物減価償却累計額　１８０,０００

４、費用・収益の繰延

保険料一年分５４,０００円を、前期と同様に、５月１日に支払った。　会計期間は、

１月１日から１２月３１日です。また、残高試算表の支払保険料の金額は、７２,０００円

になっています。

前払保険料は、５４,０００×４÷１２＝１８,０００円　になります。

また、７２,０００円には前期の前払保険料４か月分（１～４月）の金額１８,０００円が

含まれています。

期首の振替仕訳　　（支払保険料/前払保険料　１８,０００円）

その結果、今年の前払保険料　７２,０００円×４ヶ月÷１６ヶ月＝１８,０００円　となります。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前払保険料　　１８,０００ 支払保険料　　１８,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
前払保険料　　１８,０００	支払保険料　　１８,０００

５、費用・収益の見越

支払利息の未払分が７,０００円ある。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　支払利息　　７,０００ 未払利息　　７,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
支払利息　　７,０００	未払利息　　７,０００

給料の未払分が、５０,０００円ある。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　給　　料　　５０,０００ 未払給料　　５０,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　５０,００ ０	未払給料　　５０,０００

受取手数料の未収分が２,０００円ある。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎受取手数料　　２,０００ 未収手数料　　２,０００	増加	右

（仕　　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
未収手数料　　２,０００	受取手数料　　２,０００

６、有価証券の評価

売買目的有価証券の期末評価額は１５０,０００円である。

なお、帳簿価額（残高試算表の金額）は、１２０,０００円です。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　売買目的有価証券３０,０００	増加	左

有価証券評価益　３０,０００		

左側（借方）	右側（貸方）
売買目的有価証券　３０,０００	有価証券評価益　３０,０００

売買目的有価証券の期末評価額が１００,０００円の場合。

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
有価証券評価損　２０,０００	売買目的有価証券　２０,０００

７、消耗品の計上

消耗品費として処理された中には当期の未使用分が３,０００円ある。

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　消耗品　３,０００ 消耗品費　３,０００	増加	左

（仕　訳）

左側（借方）	右側（貸方）
消耗品　３,０００	消耗品費　３,０００

「精　算　表」　への記入

整理仕訳が次の場合の精算表への記入は、以下のとおりです。

(整理仕訳）

現金過不足　５０００/　受取手数料　５０００

現金過不足　３０００/　雑　　益　３０００

期首商品　１５０

仕　入　　１５０　/　繰越商品　　１５０

期末商品　２００

繰越商品　　２００　/　　仕　入　　２００

減価償却費　　９０　/　備品減価償却累計額　９０

「科目の増減処理」

１、（資産グループ、費用グループ）の残高は、左側（借方）にくる。

（資産グループ、費用グループ）の仕訳は、増加の場合は左側（借方）、減少の場合は右側（貸方）となる。

２、（負債グループ、純資産グループ、収益グループ）の残高は、右側（貸方）にくる。

（負債グループ、純資産グループ、収益グループ）の仕訳は、増加の場合は右側（貸方）、減少の場合は左側（借方）となる。

資産グループ・負債グループ・純資産グループの残高は、貸借対照表へ記入する。

費用グループ・収益グループの残高は、損益計算書へ記入する。

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借方	貸方	借方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	２８０						２８０	
現金過不足		８０００	８０００					
売掛金	６００						６００	
繰越商品	１５０		２００	１５０			２００	
備品	１０００						１０００	
支払手形		３５０						３５０
備品減価償却累計額		５４０		９０				６３０
資本金		１０００						１０００
売　上		１０００００				１０００００		

仕　入	３０００		１５０	２００	２９５０			
減価償却費			９０		９０			
受取手数料				５０００		５０００		
雑　益				３０００		３０００		
当期純利益								

第2ステップ　イメージ仕訳の基本練習問題（その１）

（１） 決算日に未処理分の仕訳

問１、期中に小切手を振り出して支払った広告費７０,０００円を８０,０００円と記帳していたことが

判明した。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　広告費　　１０,０００ 当座預金　　１０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問２、出張していた従業員が帰店し２０,０００円の概算払いをしていた旅費の精算をした結果、

現金１,０００円の戻し入れがあった。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現　金　　１,０００ 仮払金　　１,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　旅　費　　１９,０００ 仮払金　　１９,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問３、現金過不足額（貸方残７,０００円のうち５,０００円は受取手数料の記入漏れであることが
判明したが、 残額については決算日現在その発生原因が依然として不明であったので
適切な処理をした。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　受取手数料　　５,０００ 現金過不足　　５,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　２,０００ 雑　益　　２,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

(注）現金過不足勘定は、実際の現金の金額が帳簿残高より多い場合には、貸方（右側）
少ない場合には、借方（左側）に計上されます。

問４、商品の注文にかかわる手付金として受領した前受金８０,０００円のうち、６０,０００円分については
商品の引渡しが完了していたが、この処理が未済であった。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前受金　　６０,０００ 売　上　　６０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問５、現金過不足額（借方残）５００円のうち、２００円は従業員に対する給料１２,２００円を現金で
支払った際に、この取引を誤って１２,０００円で記帳したことによるものであ ることが判明した。
しかし、残額については、原因が不明であるので、適切に処理する ことにした。
（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　２００ 給　料　　２００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　３００ 雑　損　　３００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問６、仮受金３０,０００円は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に振り込まれていた取引を

記帳したものであった。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　仮受金　　３０,０００ 売掛金　　３０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問７、店主が私用のため商品（原価５,０００円）を消費したが、この取引が未記帳となっている。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　仕　入　　５,０００ 資本金　　５,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問８、仮払金１００,０００円は、当期に備品を発注した際に購入代金の一部を頭金として支払ったもの
で、すでに、使用中である。なお、この備品代金２５０,０００円の残額は、決算日現在未払いで
あり、これが未記帳となっている。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　備　品　　１００,０００ 仮払金　　１００,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　備　　品　　１５０,０００ 未払金　　１５０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

第２ステップ　　イメージ仕訳の解答（その１）

（１） 決算日に未処理分の仕訳

問１、期中に小切手を振り出して支払った広告費７０,０００円を８０,０００円と記帳していたことが

判明した。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　広告費　　１０,０００ 当座預金　　１０,０００	減少	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
当座預金　　１０,０００円	広告費　　１０,０００円

問２、出張していた従業員が帰店し２０,０００円の概算払いをしていた旅費の精算をした結果、

現金１,０００円の戻し入れがあった。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現　金　　１,０００ 仮払金　　１,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　　１,０００円	仮払金　　１,０００円

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　旅　費　　１９,０００ 仮払金　　１９,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
旅　費　　１９,０００円	仮払金　　１９,０００円

問３、現金過不足額（貸方残７,０００円のうち５,０００円は受取手数料の記入漏れであることが
判明したが、残額については決算日現在その発生原因が依然として不明であったので
適切な処理をした。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　受取手数料　　５,０００ 現金過不足　　５,０００	増加	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　　５,０００円	受取手数料　　５,０００円

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　現金過不足　　２,０００ 雑　益　　２,０００	減少	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　　２,００ ０	雑　　益　　２,０００

(注）現金過不足勘定は、実際の現金の金額が帳簿残高より多い場合には、貸方（右側）
少ない場合には、借方（左側）に計上されます。

問４、商品の注文にかかわる手付金として受領した前受金８０,０００円のうち、６０,０００円分については
商品の引渡しが完了していたが、この処理が未済であった。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前受金　　６０,０００ 売　上　　６０,０００	減少	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前受金　　６０,０００	売　上　　６０,０００

問５、現金過不足額（借方残）５００円のうち、２００円は従業員に対する給料１２,２００円を現金で
支払った 際に、この取引を誤って１２,０００円で記帳したことによるものであ ることが判明した。
しかし、残額については、原因が不明であるので、適切に処理する ことにした。
（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　２００ 給　料　　２００	減少	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　２００	現金過不足　　２００

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　現金過不足　　３００ 雑　損　　３００	減少	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
雑　損　　３００	現金過不足　　３００

問６、仮受金３０,０００円は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に振り込まれていた取引を

記帳したものであった。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　仮受金　　３０,０００ 売掛金　　３０,０００	減少	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
仮受金　　３０,００ ０	売掛金　　３０,０００

問７、店主が私用のため商品（原価５,０００円）を消費したが、この取引が未記帳とな

っている。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　仕　入　　５,０００ 資本金　　５,０００	減少	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
資本金　　５,０００	仕　入　　５,０００

問８、仮払金１００,０００円は、当期に備品を発注した際に購入代金の一部を頭金として支払ったもの

で、すでに、使用中である。なお、この備品代金２５０,０００円の残額は、決算日現在未払いで

あり、これが未記帳となっている。

（１）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　備　品　　１００,０００ 仮払金　　１００,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
備　品　　１００,０００	仮払金　　１００,０００

（２）

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　備　　品　　１５０,０００ 未払金　　１５０,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
備　　品　　１５０,０００	未払金　　１５０,０００

第2ステップ　イメージ仕訳の基本練習問題（その２）

（２）　決算整理仕訳

問1、期末商品棚卸高　２００,０００円。　なお、売上原価は「仕入」で計算する。

また、　期首繰越商品の金額は１５０,０００円。

（１）　期首

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　繰越商品　　１５０,０００ 仕　　入　　１５０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）期末

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎繰越商品　　２００,０００ 仕　　入　　２００,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問２、売買目的有価証券の期末評価額は１５０,０００円である。なお、帳簿価額（残高試算表の金額）

は、１２０,０００円です。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　売買目的有価証券３０,０００ 有価証券評価益　３０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問３、保険料一年分５４,０００円を、前期と同様に、５月１日に支払った。　会計期間は、１月１日から

１２月３１日です。また、残高試算表の支払保険料の金額は、７２,０００円になっています。

前払保険料は、５４,０００×４÷１２＝１８,０００円　になります。

また、７２,０００円には前期の前払保険料４か月分（１～４月）の金額１８,０００円が含まれて

います。

期首の振替仕訳　　（支払保険料/前払保険料　１８,０００円）

その結果、今年の前払保険料　７２,０００円×４ヶ月÷１６ヶ月＝１８,０００円　となります。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前払保険料　　１８,０００ 支払保険料　　１８,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問４、給料の未払分が５０,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け

◎　給　　料　　５０,０００ 未払給料　　５０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問５、消耗品費として処理された中には当期の未使用分が３,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　消耗品　　３,０００ 消耗品費　　３,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問６、支払利息の未払分が７,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　支払利息　　７,０００ 未払利息　　７,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問７、受取手数料の未収分が２,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ

科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎受取手数料　　２,０００ 未収手数料　　２,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問８、期末未処理整理事項の処理後の受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法

により２％の貸倒引当金を設定する。期末残高は受取手形３００,０００円、売掛金１５０,０００円

貸倒引当金６,０００円である。

貸倒引当金見積金額　（受取手形３００,０００円＋売掛金１５０,０００円）×２％　＝９,０００円

貸倒引当金繰入額　　９,０００円－６,０００円＝３,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　貸倒引当金　　３,０００ 貸倒引当金繰入額　　３,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

問９、備品および建物についてそれぞれ定額法により減価償却をする。

備品・　帳簿価額：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品減価償却累計額５４０,０００円

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：２５年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額１,１５２,０００円

（１）備品

減価償却費　（１,０００,０００円－１,０００,０００×１０％）÷１０年＝９０,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　減価償却費　　９０,０００ 備品減価償却累計額　９０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）建物

減価償却費　（５,０００,０００円－５,０００,０００×１０％）÷２５年＝１８０,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎減価償却費　　１８０,０００ 建物減価償却累計額１８０,０００		

解答

左側（借方）	右側（貸方）

第２ステップ　　イメージ仕訳の解答（その２）

（２）　決算整理仕訳

問1、期末商品棚卸高　２００,０００円。　なお、売上原価は「仕入」で計算する。

また、　期首繰越商品の金額は１５０,０００円。

（１）　期首

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　繰越商品　　１５０,０００ 仕　　入　　１５０,０００	減少	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
仕　　入　　１５０,００ ０	繰越商品　　１５０,０００

（２）期末

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎繰越商品　　２００,０００ 仕　　入　　２００,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
繰越商品　　２００,０００	仕　　入　　２００,０００

問２、売買目的有価証券の期末評価額は１５０,０００円である。なお、帳簿価額（残高試算表の金額）

は、１２０,０００円です。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　売買目的有価証券３０,０００ 有価証券評価益　３０,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
売買目的有価証券　３０,０００	有価証券評価益　３０,０００

問３、保険料一年分５４,０００円を、前期と同様に、５月１日に支払った。　会計期間は、１月１日から
１２月３１日です。また、残高試算表の支払保険料の金額は、７２,０００円になっています。　前払保険料は、５４,０００×４÷１２＝１８,０００円になります。

また、７２,０００円には前期の前払保険料４か月分（１～４月）の金額１８,０００円が含まれています。

期首の振替仕訳　（支払保険料/前払保険料　１８,０００円）

その結果、今年の前払保険料　７２,０００円×４ヶ月÷１６ヶ月＝１８,０００円　となります。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　前払保険料　１８,０００ 支払保険料　１８,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前払保険料　１８,０００	支払保険料　１８,０００

問４、給料の未払分が５０,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　給　　料　　５０,０００ 未払給料　　５０,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　５０,００ ０	未払給料　　５０,０００

問５、消耗品費として処理された中には当期の未使用分が３,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　消耗品　　３,０００ 消耗品費　　３,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
消耗品　　３,０００	消耗品費　　３,０００

問６、支払利息の未払分が７,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　支払利息　　７,０００ 未払利息　　７,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
支払利息　　７,０００	未払利息　　７,０００

問７、受取手数料の未収分が２,０００円ある。

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎受取手数料　２,０００ 未収手数料　２,０００	増加	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
未収手数料　２,０００	受取手数料　２,０００

問８、期末未処理整理事項の処理後の受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法

により２％の貸倒引当金を設定する。期末残高は受取手形３００,０００円、売掛金１５０,０００円

貸倒引当金６,０００円である。

貸倒引当金見積金額　（受取手形３００,０００円＋売掛金１５０,０００円）×２％＝９,０００円

貸倒引当金繰入額　９,０００円－６,０００円＝３,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　貸倒引当金　３,０００ 貸倒引当金繰入額　３,０００	増加	右

解答

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入額　３,０００	貸倒引当金　３,０００

問９、備品および建物についてそれぞれ定額法により減価償却をする。

備品・　帳簿価額：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品減価償却累計額５４０,０００円

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：２５年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額１,１５２,０００円

（１）備品

減価償却費　（１,０００,０００円－１,０００,０００×１０％）÷１０年＝９０,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎　減価償却費　　９０,０００ 備品減価償却累計額　９０,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　９０,０００	備品減価償却累計額　９０,０００

（２）建物

減価償却費　（５,０００,０００円－５,０００,０００×１０％）÷２５年＝１８０,０００円

イメージ仕訳

ホップ	ステップ	ジャンプ
科目付け（◎得意科目）	増減付け	左右付け
◎減価償却費　　１８０,０００ 建物減価償却累計額１８０,０００	増加	左

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　１８０,０００	建物減価償却累計額　１８０,０００

第3ステップ　未処理の仕訳練習問題（その１）

決算整理前の未処理の主な項目の処理

１、現金過不足

（１）　現金過不足額（貸方残８,０００円のうち５,０００円は受取手数料の記入漏れであることが判明したが、残額については決算日現在その発生原因が依然として不明であったので適切な処理をした。

（２）現金過不足額（借方残）５００円のうち、２００円は従業員に対する給料１２,２００円を現金で支払った際に,この取引を誤って１２,０００円で記帳したことによるものであることが判明した。しかし、残額については、原因が不明であるので、適切に処理することにした。

(３) 現金の実際手許有高は、10,000円であった。帳簿有高は10,500円で不一致の原因は不明である。

２、出張旅費の概算払いの精算

（１）　出張していた従業員が帰店し２０,０００円の概算払いをしていた旅費の精算をした結果、現金１,０００円の戻し入れがあった。

（２）　従業員の出張にあたり、旅費の概算額３０,０００円を現金で渡した。

（３）　出張中の従業員が帰店し、旅費交通費の精算を行い、現金で残額５,０００円の返済を受けた。　なお、従業員の出張にあたり、旅費の概算額３０,０００円は現金で渡してあった。

３、記帳誤り

（１）期中に小切手を振り出して支払った広告費６０,０００円を７０,０００円と記帳していたことが判明した。

４、仕訳の未処理

（１）得意先から受け取っていた約束手形を１００,０００円を銀行で割引、割引料５,０００円を差し引かれ残額を当座預金に預け入れていたが、その処理が未処理だった。

（２） 商品の注文にかかわる手付金として受領した前受金８０,０００円のうち、６０,０００円分
については商品の引渡しが完了していたが、この処理が未済であった。

（３） 店主が私用のため商品（原価５,０００円）を消費したが、この取引が未記帳となっている。

（４） 所有する有価証券の配当金領収書８,０００円を受け取っていたことが判明したが、
決算日現在、その処理が未処理だった

（５） 決算日に銀行から期日到来による受取手形７８,０００円の回収による
当座預金口座への振込みがあったという連絡がきた。

（６） かねて他店から受け取っていた当店あての約束手形5000円を、同額の買掛金
の支払いのために仕入先に裏書譲渡していたが、この取引の記帳をまだ行ってい
なかった。

５、仮払金の整理

（１） 仮払金１００,０００円は、当期に備品を発注した際に購入代金の一部を頭金と
して支払ったもので、すでに、使用中である。なお、この備品代金２５０,０００円の
残額は、決算日現在未払いであり、これが未記帳となっている。
また、この備品は１０月１日に購入したもので決算に際して月割りで減価償却を行う
予定である。

６、仮受金の整理

（１） 仮受金２０,０００円は、全額売掛金の回収であることが判明した。

（２） 仮受金５０,０００円は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に
振り込まれていたが、内容が不明のために記帳したものであった。

第3ステップ未処理の仕訳練習問題の解答（その１）

１、現金過不足

現金過不足・・・　現金過不足勘定は、実際の現金の金額（手持ち現金）が帳簿残高より多い場合には貸方（右側）、少ない場合には借方（左側）に計上されます。

最終的な差額の処理は雑益又は雑損で処理されます。

（例１）　借方（左側）に現金過不足が５,０００円残った場合

左側（借方）	右側（貸方）
雑損　５,０００円	現金過不足　５,０００円

（例２）　貸方（右側）に現金過不足が３,０００円残った場合

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　３,０００円	雑益　３,０００円

（１）　現金過不足額（貸方残８,０００円のうち５,０００円は受取手数料の記入漏れであることが判明したが、残額については決算日現在その発生原因が依然として不明であったので適切な処理をした。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　５,０００円	受取手数料　５,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
現金過不足　２,０００円	雑　益　２,０００円

（２）現金過不足額（借方残）５００円のうち、２００円は従業員に対する給料１２,２００円を現金で支払った際に,この取引を誤って１２,０００円で記帳したことによるものであることが判明した。しかし、残額については、原因が不明であるので、適切に処理することにした。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　２００円	現金過不足　　２００円

左側（借方）	右側（貸方）
雑　損　　３００円	現金過不足　　３００円

(３) 現金の実際手許有高は、10,000円であった。帳簿有高は10,500円で不一致の原因は不明である。

左側（借方）	右側（貸方）
雑　　損　　５００円	現金過不足　　５００円

２、出張旅費の概算払いの精算

出張旅費　（概算払い）　→　出張中の取引　→　出張旅費の精算

出張旅費２０,０００円を現金で概算払いしたときの仕訳

左側（借方）　　右側（貸方）

仮払金　　２０,０００円　/　現　金　　２０,０００円

（１）　出張していた従業員が帰店し２０,０００円の概算払いをしていた旅費の精算をした結果、現金１,０００円の戻し入れがあった。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　　１,０００円	仮払金　　１,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
旅　費　　１９,０００円	仮払金　　１９,０００円

（２）　従業員の出張にあたり、旅費の概算額３０,０００円を現金で渡した。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
仮払金　30,０００円	現　金　30,０００円

（３）　出張中の従業員が帰店し、旅費交通費の精算を行い、現金で残額５,０００円の返済を受けた。　なお、従業員の出張にあたり、旅費の概算額３０,０００円は現金で渡してあった。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　5,０００円	仮払金　5,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
旅　費　２５,０００円	仮払金　２５,０００円

３、記帳誤り

（１） 期中に小切手を振り出して支払った広告費６０,０００円を７０,０００円と記帳していたことが判明した。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
当座預金　１０,０００円	広告費　１０,０００円

４、仕訳の未処理

（１） 得意先から受け取っていた約束手形を１００,０００円を銀行で割引、割引料５,０００円を差し引かれ残額を当座預金に預け入れていたが、その処理が未処理だった。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
当座預金　９５,０００円	受取手形　９５,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
手形売却損　5,０００円	受取手形　5,０００円

（２） 商品の注文にかかわる手付金として受領した前受金８０,０００円のうち、６０,０００円分
については商品の引渡しが完了していたが、この処理が未済であった。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前受金　６０,０００	売　上　６０,０００

（３） 店主が私用のため商品（原価５,０００円）を消費したが、この取引が
未記帳となっている。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
資本金　５,０００	仕　入　５,０００

（４） 所有する有価証券の配当金領収書８,０００円を受け取っていたことが判明したが、
決算日現在、その処理が未処理だった

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　８,０００円	受取配当金　８,０００円

（５） 決算日に銀行から期日到来による受取手形７８,０００円の回収による
当座預金口座への振込みがあったという連絡がきた。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
当座預金　７８,０００円	受取手形　７８,０００円

（６） かねて他店から受け取っていた当店あての約束手形５,０００円を、同額の買掛金
の支払いのために仕入先に裏書譲渡していたが、この取引の記帳をまだ行ってい

なかった。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
買掛金　　５,０００円	受取手形　　５,０００円

５、仮払金の整理

（１） 仮払金１００,０００円は、当期に備品を発注した際に購入代金の一部を頭金として支払ったもので、すでに、使用中である。なお、この備品代金２５０,０００円の

残額は、決算日現在未払いであり、これが未記帳となっている。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
備　品　　１００,０００	仮払金　　１００,０００

左側（借方）	右側（貸方）
備　　品　　１５０,０００	未払金　　１５０,０００

６、仮受金の整理

（１） 仮受金２０,０００円は、全額売掛金の回収であることが判明した。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
仮受金　　２０,００ ０	売掛金　　２０,０００

（２）　仮受金５０,０００円は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に振り込まれていたが、内容が不明のために記帳したものであった。

左側（借方）	右側（貸方）
仮受金　　５０,００ ０	売掛金　　５０,０００

第５ステップ　　決算整理仕訳練習問題（その１）

決算整理事項の主な内容は、以下の**7**項目です。

７つの決算整理事項と練習問題

１、仕入と売上原価　　２、貸倒引当金の繰入　　３、減価償却費の計上
４、費用・収益の繰延　　５、費用・収益の見越　　６、有価証券の評価
７、消耗品の計上

１、仕入と売上原価

（１） 当期の仕入高が２００,０００円、期首繰越商品の金額が３０,０００円、
期末商品棚卸高　５０,０００円とする。
売上原価を「仕入」で計算する場合の決算整理仕訳と売上原価を計算しなさい。

解答

期首繰越商品の仕入勘定への振替

左側（借方）	右側（貸方）

期末商品棚卸高の仕入勘定への振替

左側（借方）	右側（貸方）

売上原価の計算

仕入高＋期首繰越商品－期末商品棚卸高＝売上原価

（２） 期末商品棚卸高　２００,０００円。　なお、売上原価は「仕入」で計算する。
また、　期首繰越商品の金額は１５０,０００円。
期首繰越商品の仕入勘定への振替

解答

左側（借方）	右側（貸方）

期末商品棚卸高の仕入勘定への振替

解答

左側（借方）	右側（貸方）

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	
繰越商品	150,000							
備品	×××						×××	
・・・								
仕　入	3,000,000							

（３）　期末商品棚卸高　１８０,０００円。期首繰越商品の金額は２１０,０００円。
なお、売上原価は「仕入」で計算する。

解答

期首繰越商品

左側（借方）	右側（貸方）

期末商品棚卸高

左側（借方）	右側（貸方）

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	

繰越商品	180,000							
備品	×××						×××	
・・・								
仕　入	3,000,000							

２、貸倒引当金の繰入

（１）　受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金１８０,０００円、貸倒引当金６,０００円である。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
	××						××	
貸倒引当金		6,000						
	×××	×××						
貸倒引当金繰入								

（２）　受取手形および売掛金の期末残高に対して、３％の貸倒を見積り、計上する事とした。

試算表の期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金１８０,０００円、貸倒引当金８,０００円

である。

また、試算表の仮受金５０,０００円は、全額売掛金の回収であるが、この処理が未処理

である。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

解 答

左側（借方）	右側（貸方）

（３） 試算表の期末残高は受取手形６００,０００円、売掛金２８０,０００円、貸倒引当金８,４００円

である。

また、得意先より売掛金１００,０００円が当座預金に振り込まれていたが、この処理が

未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、３％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（４） 試算表の期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金２８０,０００円、貸倒引当金８,５００円

である。

また、得意先より受け取っていた受取手形２００,０００円を、同額の買掛金の支払いの

ために仕入先に裏書譲渡していたが、この処理が未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（５） 試算表の期末残高は受取手形７００,０００円、売掛金３００,０００円、貸倒引当金８,０００円

である。

また、得意先より受け取っていた受取手形２００,０００円を取引銀行で割り

引き、割引料

１０,０００円を差し引かれ、残額を当座預金に預け入れたが、この処理が未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（６） AB商店に対する売掛金６０,０００円が、回収不能となった。

ただし、貸倒引当金勘定の残高は８０,０００円である。

左側（借方）	右側（貸方）

（７） XY商店に対する売掛金５０,０００円が、回収不能となった。

ただし、貸倒引当金勘定の残高は２０,０００円である。

左側（借方）	右側（貸方）

左側（借方）	右側（貸方）

（８） 前期に貸倒れとして処理した売掛金３０,０００円のうち１０,０００円を現金で回収した。

左側（借方）	右側（貸方）

（９） 受取手形および売掛金の期末残高に対して、洗替法により２％の貸倒引当金を設定する。

期末残高は受取手形３００,０００円、売掛金１５０,０００円、貸倒引当金６,０００円である。

解答 (洗替法)

左側（借方）	右側（貸方）

左側（借方）	右側（貸方）

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
	××						××	
貸倒引当金		6,000						
	×××	×××						
貸倒引当金戻入								
貸倒引当金繰入								

３、減価償却費の計上

（１） 備品および建物についてそれぞれ定額法により減価償却をし、これを間接法で処理をする。

備品・　帳簿価額：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品減価償却累計額 ５４０,０００円

建物・　帳簿価額： ５,０００,０００円　耐用年数：２５年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額 １,１５２,０００円

（１）備品

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）建物

解答

左側（借方）	右側（貸方）

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	
建物	5,000,000							
備品	1,000,000							
・・・								
建物減価償却累計額		1,152,000						
備品減価償却累計額		540,000						
減価償却費								

（２） 備品および建物について、それぞれ定額法により減価償却をし、これを間接法で処理する

こととした。会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

備品・　取得原価：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品は、当期の７月１日に購入したものである。

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：３０年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額１,３５０,０００円

（１）備品

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）建物

解答

左側（借方）	右側（貸方）

４、費用・収益の繰延

（１）　損害保険料１年分２４,０００円を１０月１日に支払った。決算につき、保険料の前払い分を繰り延べる。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）　家賃一年分９６０,０００円を、５月１日に支払った。

会計期間は、１月１日から１２月３１日です。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（３）　支払保険料２,４００円は、６月１日に保険に加入し、向こう１年分を一括して支払ったものである。次期の費用として計上すべき保険料を繰り延べる処理をする。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（４）　損害保険料１年分を５月１日に支払った。残高試算表の残高は９６,０００円である。

決算につき、保険料の前払い分を繰り延べる。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（５）　家賃は毎年半年分を２月１日と８月１日に受け取っている。
残高試算表の受取家賃の残高は７８,０００円である。
決算につき、家賃の前受分を繰り延べる。
会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

５、費用・収益の見越

（１）給料の未払分が５０,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）７月１日に年利３％、期間１年の条件で２,０００,０００円を借り入れ、利息は返済日に元金とともに一括で支払うこととなっている。決算に際して、支払利息の未払分を見越し計上する。会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（３）　貸付金５００,０００円は、１０月１日に、年利率３％、貸付期間１２ヶ月の条件で
貸し付けたものである。決算にあたり利息の未収分を計上する。
会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（４）　支払利息について、当期に計上すべき金額は５,０００円であった。すでに、

期中において支払った金額３,５００円との差額を見越し計上する。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（５）　５月１日に年利３％、期間１年の条件で１,０００,０００円を借り入れ、利息は返済日に元金とともに一括で支払うこととなっている。決算に際して、支払利息の未払分を見越し計上する。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

６、有価証券の評価

（１） 売買目的有価証券(帳簿価額１５０,０００円）を、時価１２０,０００円に評価替えする。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）　売買目的有価証券(帳簿価額１００,０００円）の決算日における時価は７０,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（３）　売買目的有価証券(帳簿価額９０,０００円）の決算日における時価は１００,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

７、消耗品の計上

購入時に消耗品費（費用）で処理していた場合

（１） 決算日現在、未消費の消耗品が３,０００円あるので、これを資産に計上する。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

（２）　決算日現在、消耗品の未使用高は５,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

購入時に消耗品（資産）処理していた場合

（1）　決算日現在、消耗品５０,０００円のうち、未使用高は５,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）

第5ステップ　決算整理仕訳練習問題の解答(その１）

決算整理事項・・・決算日現在の勘定科目の残高を正しい金額にするための修正をすることを 決算整理といい、決算整理が必要な事柄を決算整理事項といいます。

「７」つの決算整理事項と練習問題

１、仕入と売上原価　　２、貸倒引当金の繰入　　３、減価償却費の計上
４、費用・収益の繰延　　５、費用・収益の見越　　６、有価証券の評価
７、消耗品の計上

１、仕入と売上原価

（１） 当期の仕入高が２００,０００円、期首繰越商品の金額が３０,０００円、期末商品棚卸高　５０,０００円とする。
売上原価を「仕入」で計算する場合の決算整理仕訳と売上原価を計算しなさい。

解答

期首繰越商品の仕入勘定への振替

左側（借方）	右側（貸方）
仕　　入　　３０,０００	繰越商品　　３０,０００

期末商品棚卸高の仕入勘定への振替

左側（借方）	右側（貸方）
繰越商品　　５０,０００	仕　　入　　５０,０００

売上原価の計算

仕入高＋期首繰越商品－期末商品棚卸高＝売上原価
２００,０００円＋３０,０００円－５０,０００円＝１８０,０００円

（２） 期末商品棚卸高　２００,０００円。　なお、売上原価は「仕入」で計算する。
また、　期首繰越商品の金額は１５０,０００円。
期首繰越商品の仕入勘定への振替

解答

左側（借方）	右側（貸方）

仕　　入　　１５０,００ ０	繰越商品　　１５０,０００

期末商品棚卸高の仕入勘定への振替

解答

左側（借方）	右側（貸方）
繰越商品　　２００,０００	仕　　入　　２００,０００

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	
繰越商品	150,000		200,000	150,000			200,000	
備品	×××						×××	
・・・								
仕　入	3,000,000		150,000	200,000	2,950,000			

（３）　期末商品棚卸高　１８０,０００円。期首繰越商品の金額は２１０,０００円。
なお、売上原価は「仕入」で計算する。

解答

期首繰越商品

左側（借方）	右側（貸方）
仕　　入　　２１０,０００	繰越商品　　２１０,０００

期末商品棚卸高

左側（借方）	右側（貸方）
繰越商品　　１８０,０００	仕　　入　　１８０,０００

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	
繰越商品	180,000		210,000	180,000			210,000	
備品	×××						×××	
・・・								
仕　入	3,000,000		180,000	210,000	2,970,000			

２、貸倒引当金の繰入

（１）　受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金１８０,０００円、貸倒引当金６,０００円である。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

貸倒引当金見積金額

（受取手形５００,０００円＋売掛金１８０,０００円）×２％　＝１３,６００円

貸倒引当金繰入額　　１３,６００円－６,０００円＝７,６００円

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　　７,６００	貸倒引当金　　７,６００

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
	××						××	

貸倒引当金		6,000		7,600				13,600
	×××	×××						
貸倒引当金繰入			7,600		7,600			

（２） 受取手形および売掛金の期末残高に対して、３％の貸倒を見積り、計上する事とした。

試算表の期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金１８０,０００円、貸倒引当金８,０００円

である。

また、試算表の仮受金５０,０００円は、全額売掛金の回収であるが、この処理が

未処理である。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

貸倒引当金見積金額

（受取手形５００,０００円＋売掛金１８０,０００円－５０,０００円）×３％＝１８,９００円

貸倒引当金繰入　１８,９００円－　８,０００円＝１０,９００円

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　　１０,９００円	貸倒引当金　　１０,９００円

（３） 試算表の期末残高は受取手形６００,０００円、売掛金２８０,０００円、貸倒引当金８,４００円

である。

また、得意先より売掛金１００,０００円が当座預金に振り込まれていたが、この処理が

未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、３％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

貸倒引当金見積金額

（受取手形６００,０００円＋売掛金２８０,０００円－１００,０００円）×３％

＝２３,４００円

貸倒引当金繰入　２３,４００円－　８,４００円＝１５,０００円

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　　１５,００円	貸倒引当金　　１５,０００円

（４） 試算表の期末残高は受取手形５００,０００円、売掛金２８０,０００円、貸倒引当金８,５００円

である。

また、得意先より受け取っていた受取手形２００,０００円を、同額の買掛金の支払いの

ために仕入先に裏書譲渡していたが、この処理が未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

貸倒引当金見積金額

（受取手形５００,０００円－２００,０００円＋売掛金２８０,０００円）×２％＝１１,６００円

貸倒引当金繰入　１１,６００円－　８,５００円＝３,１００円

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　　３,１００円	貸倒引当金　　３,１００円

（５） 試算表の期末残高は受取手形７００,０００円、売掛金３００,０００円、貸倒引当金８,０００円

である。

また、得意先より受け取っていた受取手形２００,０００円を取引銀行で割り引き、割引料

１０,０００円を差し引かれ、残額を当座預金に預け入れたが、この処理が未処理である。

受取手形および売掛金の期末残高に対して、２％の貸倒を見積り、計上する事とした。

貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。

貸倒引当金見積金額

（受取手形７００,０００円ー２００,０００円＋売掛金３００,０００円）×２％＝１６,０００円

貸倒引当金繰入　１６,０００円ー　８,０００円＝８,０００円

解答　（差額補充法）

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　８,００００円	貸倒引当金　８,０００円

（６） AB商店に対する売掛金６０,０００円が、回収不能となった。
ただし、貸倒引当金勘定の残高は８０,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金　６０,０００	売掛金　６０,０００

（７）　XY商店に対する売掛金５０,０００円が、回収不能となった。
ただし、貸倒引当金勘定の残高は２０,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金　２０,０００	売掛金　２０,０００

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒損失　３０,０００	売掛金　３０,０００

（８）　前期に貸倒れとして処理した売掛金３０,０００円のうち１０,０００円を現金で回収した。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
現　金　１０,００	債権償却取立益　１０,０００

0	

（９）　受取手形および売掛金の期末残高に対して、洗替法により２％の貸倒引当金を設定する。

期末残高は受取手形３００,０００円、売掛金１５０,０００円、貸倒引当金６,０００円である。

解答 (洗替法)

貸倒引当金見積金額　（受取手形３００,０００円＋売掛金１５０,０００円）×２％　＝９,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金　　６,００ 0	貸倒引当金戻入　　６,０００

左側（借方）	右側（貸方）
貸倒引当金繰入　　９,００ 0	貸倒引当金　　９,０００

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
	××						××	
貸倒引当金		6,000	6,000	9,000				9,000
	×××	×××						
貸倒引当金戻入				6,000		6,000		
貸倒引当金繰入			9,000		9,000			

３、減価償却費の計上

（１）　備品および建物についてそれぞれ定額法により減価償却をし、これを間接法で処理をする。

備品・　帳簿価額：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品減価償却累計額　５４０,０００円

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：２５年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額　１,１５２,０００円

（１）備品

減価償却費(１,０００,０００円ー1,000,000円×１０％)÷10年＝900,000円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　９０,０００	備品減価償却累計額　９０,０００

（２）建物

減価償却費（５,０００,０００円－５,０００,０００×１０％）÷２５年＝１８０,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　１８０,０００	建物減価償却累計額　１８０,０００

精　算　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸方	借　方	貸方	借　方	貸　方
現金預金	×××						×××	
・・・								
売掛金	××						××	
建物	5,000,000						5,000,000	
備品	1,000,000						1,000,000	
・・・								

建物減価償却累計額		1,152,000		180,000				1,332,000
備品減価償却累計額		540,000		90,000				630,000
減価償却費			270,000		270,000			

（２）　備品および建物について、それぞれ定額法により減価償却をし、これを間接法で処理する

　　こととした。会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

備品・　取得原価：１,０００,０００円　耐用年数：１０年　残存価額：取得原価の１０％

備品は、当期の７月１日に購入したものである。

建物・　帳簿価額：５,０００,０００円　耐用年数：３０年　残存価額：取得原価の１０％

建物減価償却累計額　１,３５０,０００円

（１）備品

減価償却費（１,０００,０００円－１００,０００）÷１０年×６÷１２＝４５,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　４５,０００	備品減価償却累計額　４５,０００

（２）建物

減価償却費　（５,０００,０００円－５,０００,０００×１０％）÷３０年＝１５０,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
減価償却費　　１５０,０００	建物減価償却累計額　１５０,０００

４、費用・収益の繰延

（１）　損害保険料１年分２４,０００円を１０月１日に支払った。決算につき、保険料の前払い分を繰り延べる。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

２４,０００円×９÷１２＝１８,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前払保険料　　１８,０００	支払保険料　　１８,０００

（２）　家賃一年分９６０,０００円を、５月１日に支払った。

会計期間は、１月１日から１２月３１日です。

前払家賃は、９６０,０００×４÷１２＝３２０,０００円　になります。（翌年１～４月分）

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前払家賃　　３２０,０００	支払家賃　　３２０,０００

（３）　支払保険料２,４００円は、６月１日に保険に加入し、向こう１年分を一括して支払ったものである。次期の費用として計上すべき保険料を繰り延べる処理をする。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

解答

２,４００円×５÷１２＝１,０００円

左側（借方）	右側（貸方）
前払保険料　　１,０００	支払保険料　　１,０００

（４）　損害保険料１年分を５月１日に支払った。残高試算表の残高は９６,０００円である。

決算につき、保険料の前払い分を繰り延べる。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

残高試算表の残高９６,０００円には、前期から繰り延べられた４か月分と

５月に支払った１２か月分の合計１６か月分になります。

９６,０００円×4÷（１２＋４）＝２４,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
前払保険料　　２４,００００	支払保険料　　２４,０００

（５）　家賃は毎年半年分を２月１日と８月１日に受け取っている。

残高試算表の受取家賃の残高は７８,０００円である。

決算につき、家賃の前受分を繰り延べる。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

残高試算表の残高７８,０００円には、前期から繰り延べられた１か月分と

２月と８月に受け取った１２か月分の合計１３か月分になります。

７８,０００円×１÷（１２＋１）＝6,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
受取家賃　　6,０００	前受家賃　　6,０００

５、費用・収益の見越

（１）　給料の未払分が５０,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
給　料　　５０,００００	未払給料　　５０,０００

（２）　７月１日に年利３％、期間１年の条件で２,０００,０００円を借り入れ、利息は返済日に元金とともに一括で支払うこととなっている。決算に際して、支払利息の

未払分を見越し計上する。会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

２,０００,０００円×３％×６÷１２＝３０,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
支払利息　30,０００	未払利息　30,０００

（３）　貸付金５００,０００円は、１０月１日に、年利率３％、貸付期間１２ヶ月の条件で

貸し付けたものである。決算にあたり利息の未収分を計上する。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

５００,０００円×３％×３÷１２＝３,７５０円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
未収利息　３,７５０	受取利息　３,７５０

（４）　支払利息について、当期に計上すべき金額は５,０００円であった。すでに、期中において支払った金額３,５００円との差額を見越し計上する。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
支払利息　1,5００	未払利息　１,５００

（５）　５月１日に年利３％、期間１年の条件で１,０００,０００円を借り入れ、利息は返済日に元金とともに一括で支払うこととなっている。決算に際して、支払利息の未払分を見越し計上する。

会計期間は、１月１日から１２月３１日までの１年間である。

１,０００,０００円×３％×８÷１２＝２０,０００円

解答

左側（借方）	右側（貸方）
支払利息　２0,０００	未払利息　２0,０００

６、有価証券の評価

（１）売買目的有価証券(帳簿価額１５０,０００円）を、時価１２０,０００円に評価替えする。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
有価証券評価損　　３０,０００	売買目的有価証券　　３０,０００

（２）　売買目的有価証券(帳簿価額１００,０００円）の決算日における時価は７０,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
有価証券評価損　　３０,０００	売買目的有価証券　　３０,０００

（３）　売買目的有価証券(帳簿価額９０,０００円）の決算日における時価は１００,０００円である。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
売買目的有価証券　　１０,０００	有価証券評価益　　１０,０００

７、消耗品の計上

購入時に消耗品費（費用）で処理していた場合

（１）決算日現在、未消費の消耗品が３,０００円あるので、これを資産に計上する。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
消耗品　　３,０００	消耗品費　　３,０００

（２）　決算日現在、消耗品の未使用高は５,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
消耗品　　５,０００	消耗品費　　５,０００

購入時に消耗品（資産）処理していた場合

（1）　決算日現在、消耗品５０,０００円のうち、未使用高は５,０００円ある。

解答

左側（借方）	右側（貸方）
消耗品費　　４５,００００	消耗品　　４５,０００